



紫雲児の心

今日行われた1学期の終業式で、「失敗から学ぶこと」と「生き方を考えること」の2つについて、以下のような話をしました。ご家庭でも、夏休み中に、是非、話題にいただければ幸いです。

1 学期終業式校長講話より

校長 五十嵐 めぐみ

今日で1学期が終わります。どんな1学期でしたか？皆さんは、学習や部活動などの目標を決めて、それに向けて努力してきたと思います。目標を達成できた人はもちろん素晴らしいのですが、達成できなくても、努力したことに価値があります。自分の取組を振り返り、何は良くて何は良くなかったか、どこをどう改善すれば目標達成に近づけるかを確認して、また頑張れば良いのです。「うまくいかなかった。失敗した。」と思っている人もいるでしょうが、誰でも失敗はします。その失敗から何を学び、次にどうするかが肝心です。人は、失敗した時にこそ自分自身をきちんと見つめることができるのです。

中国の孔子の言葉に、「過ちて改めざる、これを過ちという。」があります。「失敗しても改めないことが本当の失敗だ。」という意味です。同じ失敗を繰り返すことが失敗であり、失敗したとしても、その失敗から学び、改善すれば、それは失敗ではないということです。失敗した時に一番良くないのは、人のせいにする事です。自分の失敗から目を反らしたり、他の人のせいにしたりする人は、同じ失敗を繰り返し、いつまで経っても成長できません。それが「過ち」、つまり、本当の失敗です。失敗した時に、誰かのせいにせず、自分自身の取組をしっかり見つめて、何が悪かったのか、今後どうすればよいかを考えて実行できる人は、必ず成長します。

1学期にうまくできたことは、2学期以降も継続しましょう。また、うまくできなかったことから目を背けず、しっかり見つめて振り返り、2学期はどうするかを具体的に考え、一つ一つ実行していきましょう。

さて、明日から夏休みですが、私から皆さんに宿題を出します。「自分の良さを見付ける」ことです。条件が1つあります。「人の役に立つこと」です。自分の良さを生かして、どんな風に誰かの役に立てそうかを見付けることが、私から皆さんへの、夏休みの宿題です。

新潟県では、毎年7月を「夢、創造、ナビゲーション月間」として、キャリア教育を進めています。キャリア教育は、生き方を考える学習です。将来どんな職業に就きたいか、どんな生き方をしたいか、様々な学習を通して考えます。人は、社会の中で、誰かの役に立ちながら生きています。ですから、自分の生き方を考える時には、「自分はどんな風に人の役に立てそうか」を考えることが大切です。夏休みには、是非、家の仕事を手伝ったり、家族や親戚の人と、働くことや自分の将来について話したりしてください。身近な人の仕事の内容ややりがいについての話を聞いて、その仕事が自分に向いているか考えたり、自分にはどんな良さがあるか、どんな風に人の役に立てそうか、いろいろな人の意見を聞いて考えてみたりしてください。人は意外に、自分の良さをわかっていません。むしろ、周りの人の方が、あなたたちの良さをよくわかっているかもしれません。自分自身では気付いていない自分の良さを知ることは、自分らしい生き方を見付けるための第一歩です。夏休みには、是非、誰かの役に立つ経験をして、自分の良さを見付けてください。

夏休みには、普段はなかなかできない様々な体験をして、人としての学びの幅を広げてほしいと思います。しかし、最も重要なことは「安全」です。命を守ることはもちろん、社会のルールやマナーを守った生活が重要です。SNSなどを利用する機会も増えると思いますが、再度、親子で約束を確認し、トラブルに巻き込まれないようにしてください。安全で充実した夏休みにしてください。